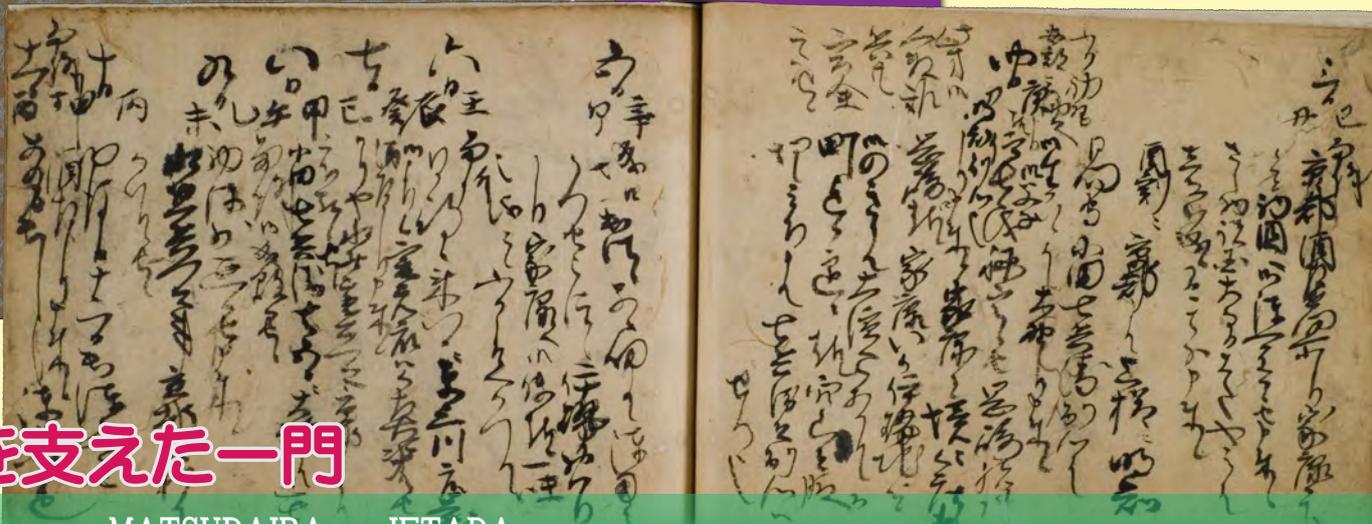


家忠日記一

駒澤大学図書館所蔵
貴重書公開



家忠日記 駒澤大学図書館所蔵
天正十年(一五八二)六月条

【原寸比1/2】

家康を支えた一門

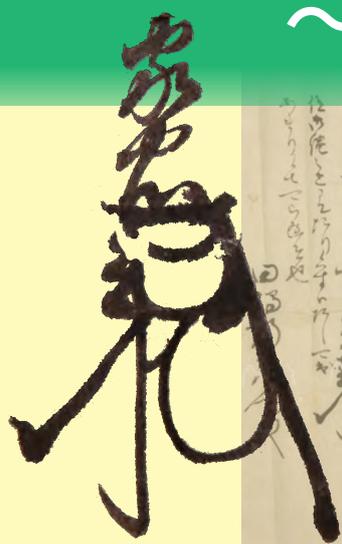
MATSUDAIRA IETADA

松平家忠とその時代

～『家忠日記』と本光寺～

日記から読み解くリアルな戦国

徳川家康の一門・深溝松平家忠(一五五五〜一六〇〇)が書き残した日記と、深溝松平氏の菩提寺・本光寺(愛知県幸田町・長崎県島原市)に伝来する関係資料から、戦国武将の実像に迫ります。



松平家忠知行安堵状 本光寺(長崎県)所蔵
(松平家忠花押)



松平家忠肖像 本光寺(愛知県)所蔵



深溝松平家所伝の槍 本光寺(愛知県)所蔵

- 【主催】 駒澤大学禅文化歴史博物館
- 【共催】 駒澤大学禅ブランディング事業
- 【協力】 駒澤大学大学院久保田昌希ゼミ
- 【後援】 幸田町教育委員会
島原市教育委員会
世田谷区教育委員会
- 【特別出品協力】 本光寺(愛知県幸田町)
本光寺(長崎県島原市)
肥前島原松平文庫

令和元(2019)年

9月16日(月)～11月13日(水)

【開館時間】 10時～16時30分
入館無料

駒澤大学禅文化歴史博物館

The Museum of Zen Culture and History, Komazawa University

〒154-8525

東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL (03)3418-9610

FAX (03)3418-9611

<http://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/museum/>



家忠日記 全7冊 駒澤大学図書館所蔵

駒澤大学図書館所蔵の貴重書『家忠日記』は、徳川家康の一門・深溝松平家忠の自筆日記です。戦国武将の自筆日記としてたいへん希少で、家忠の日常生活や合戦での様子、信長・秀吉・家康の動向などが記され、戦国時代のリアルタイムの情報を知ることができます。

『家忠日記』の自筆原本とともに、深溝松平家の菩提寺である二つの本光寺（愛知県幸田町・長崎県島原市）に伝来する深溝松平家ゆかりの資料を同時に公開する初の企画展を開催致します。

どんな人が書いたの？



松平家忠肖像 本光寺（愛知県）所蔵

松平家忠プロフィール

徳川家康の一門・松平一族の出身で、三河国深溝の領主・深溝松平氏の四代目当主。

生年：天文24年（1555） 月日は不明

没年：慶長5年（1600）8月1日（現在の暦で9月8日）

享年：46歳（数え年）

出身地：三河国深溝郷（現愛知県額田郡幸田町）

死没地：山城国伏見城（現京都府京都市伏見区）

通称：又八（又八郎）、主殿助

父：松平伊忠、母：鶴殿長持の娘、妻：水野忠分の次女

尊敬する人：徳川家康・里村紹巴

趣味：連歌、数寄（茶の湯）、鷹狩り、川狩り（川魚捕り）、日記をつけること？

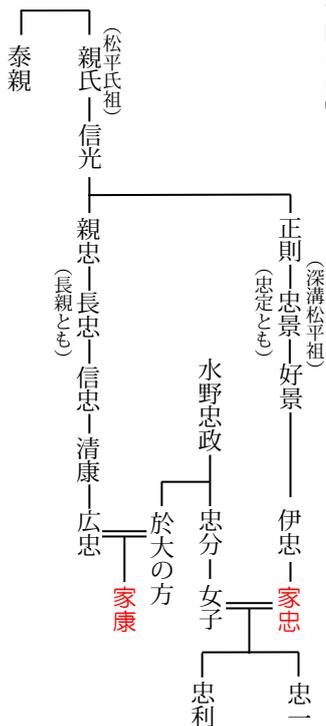
松平家忠は、多くの合戦に参加し、また城普請に従事するなど、主君家康を支えて活躍しました。

『家忠日記』には、家康が三河一国の領主から、江戸城主になるまでの過程が記され、徳川氏の権力が成長していく様子をうかがうことができます。

家康の城に家康が江戸に移ると、深溝から忍（埼玉県行田市）に移封し、ついで上代（千葉県旭市）、小見川（千葉県香取市）へと移りました。

慶長5年（1600）年、関ヶ原の戦いの前哨戦となる伏見城の戦いで、石田三成方の攻撃により、籠城戦の末、壮絶な討ち死にを遂げています。

【関係略系図】



家康と家忠は義理の従兄弟に当たる

家忠が日記をいつから書き始め、いつ終えたのかは定かではありません。

連続して残っているのは天正5年（1577）10月14日から、文禄3年（1594）9月までの約17年間です。以後は断簡となっていて読み取るのは困難です。

家忠は慶長5年（1600）に伏見城の戦いで没するまで日記を書き続けたとも考えられています。

いつ書かれたの？



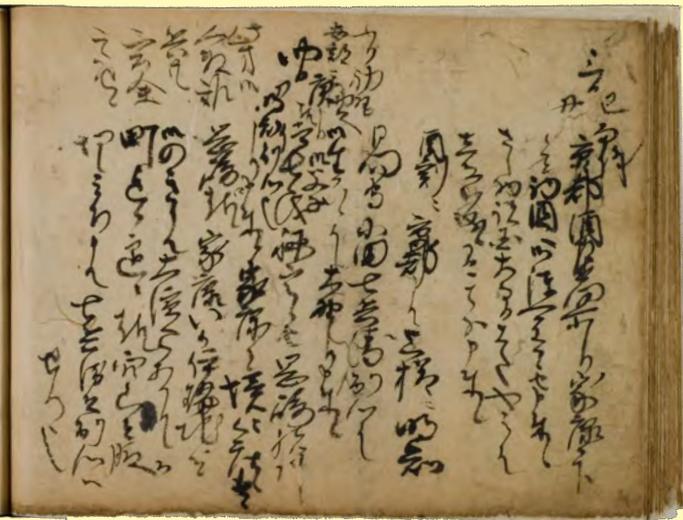
- 一巻：天正 5年 10月 14日～天正 7年 9月 5日
- 二巻：天正 7年 9月 6日～天正 9年 11月 7日
- 三巻：天正 9年 11月 8日～天正 11年 1月 8日
- 四巻：天正 11年 1月 9日～天正 14年 8月 5日
- 五巻：天正 14年 8月 6日～天正 17年 12月 19日
- 六巻：天正 17年 12月 20日～天正 20年 7月 6日
- 七巻：天正 20年 7月 7日～文禄 3年 9月？

人魚も登場!?



天正9年4月16日(二五八) 24日条付近(二巻)

『家忠日記』に記された本能寺の変 ～天正10年(1582)6月3日・4日の日記～



天正10年(1582)6月3日・4日条(三巻) 駒澤大学図書館所蔵

一大事に情報混乱! 家康の安否は?

四日 寅 信長親子(の死)については秘密と
いうことが、岡崎城や緒川城から伝
えられた。家康は堺にいたそうだ。(私
は)岡崎へ行った。(家康は)伊賀・
伊勢路を通って逃れ、大浜(愛知県
碧南市)に上陸したので、町まで迎
えに行った。穴山(信君)は切腹した。
途次で七兵衛(信澄)の謀反は風説
だと知った。

三日 丑 雨降り。京都の酒井左衛門尉(忠次)
より、家康が戻って来たら、西国へ
御出陣があると伝えられた。旗指物
は大きいものはやめて、捷しな物もの
とする^はと伝えられた。
酉刻(午後六時頃)、京都にて上様(信
長)が明智日向守(光秀)と織田七兵
衛(信澄)の謀反により、ご自害さ
れたと大野から伝えられた。

【大意】

信長は「上様」だけど、家康は呼び捨て?

愛知県幸田町の本光寺は、
深溝松平家初代忠定によって、
享祿元年(1528)に開創されたと
伝えられます。以後、深溝
松平家の菩提寺として、歴代
当主の埋葬地となりました。



深溝松平家墓所
右から初代忠定、2代好景、3代伊忠、4代家忠

7代忠雄(1673～1736)の
墓所からは、平成21年の発掘
調査で、蒔絵製品・銀製香道具・刀剣・陶磁器・漆器
・貨幣など大量の副葬品が出土しました(松平忠雄墓
所出土品一括、幸田町指定文化財)。

近世大名の墓制を知る上で、国内でもたいへん重要
な史跡であることから、墓所全域が「国史跡 島原藩
主深溝松平家墓所」となっています。



本光寺(愛知県幸田町)



7代忠雄墓所から出土した
慶長小判と慶長一分金



本光寺開山希声英音肖像(左)・二世華宗英香肖像(右)



松平家忠・忠利・忠一肖像 三幅対(幸田町指定文化財)
中央:家忠 右:忠利 左:忠一

以上、本光寺(愛知県)所蔵資料



伏見城攻図 慶長5年(1600)、家忠が戦死した伏見城の戦いの布陣を描いた図
縦188cm×横157cmの大幅

深溝松平家は、家忠没後、吉田(豊橋)→刈谷→福知山→島原と移封を重ね、それに伴って菩提寺である本光寺も移転しました。寛文9年(1669)、6代忠房の時に島原に入封し、以後明治維新まで島原藩主を務めました(1749～74の間のみ宇都宮に移封)。

長崎県島原市の本光寺は、島原移封に伴い建立された深溝松平家の菩提寺です。

深溝本光寺時代からの深溝松平家関連資料を所蔵し、「常盤歴史資料館」を設置して保管・公開しています。

SHIMABARA 島原



本光寺(長崎県島原市)



今川義元寺領安堵状 本光寺宛て



織田信長書状 三河守(徳川家康)宛て
以上、本光寺(長崎県)所蔵資料

旧島原藩主松平家が歴代にわたり収集・所蔵していた古典籍類を中核とする資料保存機関。これらの古典籍類は長崎県有形文化財に指定されています。

深溝松平家は、代々好学の家柄として知られ、島原藩初代松平忠房は、文学・歴史・兵法・絵図など、広く天下の貴重本を収集しました。歴代藩主も学問を好み、これらの遺風が継承されていきました。

肥前島原 松平文庫

(島原図書館内)



深溝誌(萩の古枝) 三河深溝村と本光寺について探究した書
肥前島原松平文庫所蔵

開館カレンダー

9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30		
29	30																			

休館日
※休館日、開館時間等は変更になる場合があります

第39回禅博セミナー(企画展関連講演)

家康を支えた一門 松平家忠とその時代
～『家忠日記』と本光寺～

講師 駒澤大学文学部教授 久保田昌希(本企画展監修)

日時 令和元年10月11日(金)18時～19時半
会場 駒澤大学中央講堂
定員 150名(※申込不要・参加費不要)